

ボランティアステップアップカリキュラム開発 「笑顔！応援シタイ！！」

平成21年11月21日（土）～11月22日（日）
（1泊2日）



I 事業の背景

本事業は国立青少年教育振興機構が旧青少年教育3法人が発展的統合したことを契機に各施設が有するノウハウを共有し、新たなプログラムを開発することを目的としている。機構で策定したボランティア養成研修を受け、更に法人ボランティアとしての資質向上と事業参画への機会提供のためにステップアップ研修が必要と考え事業を企画した。

II 事業の概要

1 趣 旨

関東ブロック6施設が連携・協力して、都市型・青年施設・少年施設に対応した青少年教育施設のボランティア養成共通カリキュラムに続く、ステップアップ研修カリキュラムを開発する。

2 参加対象

ボランティア養成研修を受講・修了し法人ボランティアに登録した青年
青少年教育施設でのボランティア経験がある青年 10名

3 参加状況

10名（男4名・女6名）

4 企画のポイント

研修プログラムの作成に当たっては、法人ボランティアや養成研修参加者との意見交換を行い「即、実践に活かせる」「体験重視」のプログラムとした。ボランティア同士の仲間意識を高め、協力する体制を作るために、グループワークや合同の活動を多く取り入れ人間関係の構築を目指した。

メインキャンプ「子どもエコキャンプ」に向け、活動経験の多い先輩ボランティアをリーダー、今回の参加者（初心者）をサブリーダーとしてグルーピングを行い、メインキャンプ当日の運営がスムーズに進めるように配慮した。

研修の活動中は子どもたちにとってどこが危険か、どのように道具を使ったらよいか等のアドバイスを適宜行い「即、実践」を目指した。

5 実施状況・参加者の様子

11月21日《1日目》

- 実習「つながりを広げよう」
 - ・ゲームやレクリエーションを通して参加者同士の交流を深める。子どもたちとのコミュニケーションのとり方を身につける。
- 講義「企画事業ってなに？」
 - ・青少年教育施設の行方、企画事業の趣旨や教育的役割について知る。
- 講義・演習「リスクマネジメント」
 - ・KYT（危険予知トレーニング）を利用して、安全に楽しく活動するための危機回避、安全管理、安全対策について知る。
- 演習「企画事業に参加！」
 - ・企画事業「子どもエコキャンプ」の企画会議に参加し、企画の立て方や運営の方法を知る。



【炭を焼くための落ち葉を集る。これも当日の活動のための大切な準備です】

1 1 月 月 2 2 日 《2 日 目》

- 演習「企画事業に参加！」
 - ・企画事業に参加し、ボランティア企画「わくわくタイム」の計画を立てる。
 - ・「わくわくタイム」のシュミレーションを行う。
- まとめ
 - ・研修を振り返り、メインキャンプ「子どもエコキャンプ」への参画の意欲を高める。



【企画会議の様子：先輩ボランティアの話を真剣に聞き入る】



【自分たちのプログラムを発表するボランティア】

《参加者の声》

- ・自分たちで企画するところが勉強になった。
- ・ただ話を聞いているだけではなく、実際に活動できたのでよかった。
- ・的確なアドバイスをいただいて納得したり、気付けることがたくさんあった。
- ・初めてのことでどうしていいかわからないこともあったが、自分たちで作り上げるのは面白いと思った。
- ・1泊2日の短い研修だったが、限られた時間で行うという大切なことを知り、学ぶことができた貴重な機会でもあった。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

今回の研修では、「即、実践に活かせる」研修として「子どもエコキャンプ」に向けての企画会議参加をプログラムに組み入れた。

また、企画立案力の向上に特化した研修とするために、「子どもエコキャンプ」での自主企画「わくわくタイム」の企画立案を行い、メインキャンプで実施した。

「子どもエコキャンプ」事業後の感想には「学ぶことが多かったし、次につなげていけることをたくさん得られた」「子どもたちが一生懸命やろうという気持ちにさせてくれたので、気を抜く暇なんてなかったし、自分で考えて行動できた」、また、「自分たちの自己満足だけではなかったか、もう一度反省してみたい」「自分の立ち位置がよく分からなかったために、全ての子どもに目を配れなかった」とあり、参加者はステップアップ研修からメインキャンプへの参加によって達成感や喜びを感じるとともに、自分自身の課題を見つけ、それを、今後の活動につなげようとする意欲や向上心を持ったことがうかがえた。

2 今後の課題

ステップアップ研修では実践に即した活動プログラムを構成することが大切であり、ボランティア育成のカリキュラムを作成するに当たっては、養成研修では主に知識・理解、ステップアップ研修では実践に即した研修とし、単発での研修ではなく年間を通して事業の中に研修を位置づける等、見通しを持った活動の場を提供することが必要である。

担当：企画指導専門職 山本 静